

シータとミティ



Art By Akiko

うちゅう
はるか宇宙のとおく、
ほし
アンドロメダという星に、
じょせい
シータという女性と、
ユニコーンのミティがいました。

おたがい だいすき
2人はお互いのことが大好きで、

なかよし
とても仲良しでした。

けんきゅうしゃ
シータは、研究者でした。

みどり けんきゅうしつ
緑いっぱいの研究室で

けんきゅう
「苔(こけ)」の研究をしていました。

たいこ もり
アンドロメダには、太古からの森が

たくさんあり、

せいれい ようせい くらして
聖霊や、妖精たちが暮らしていました。

そして、ユニコーンのミティも

くらして
そこに暮らしていました。

もり
その森を、いつまでも

ゆたか たもつ
豊かに保つために

こけ けんきゅう
苔の研究は

かかせない
欠かせないものでした。

しごと けんきゅう
シータの仕事と研究は

じゅうよう
とても重要なものでした。

ひかるこけ
光る苔

おんがく だすこけ
音楽を出す苔

こけ
ふわふわの苔

こけ なんぜんしゅるい
苔だけで何千種類もありました。

アンドロメダの苔は
テレパシーで話しもできました。

なによりも、
水分をたっぷりと含んだ苔は

未来永劫、

森を護るための
大切な役目がありました。

苔たちの
そのふわふわの柔らかい

感触は、妖精たちのベットにぴったりでした。

そして、

もり きぎ せいれい
森の木々や聖霊も

こけ
苔たちに

かんしゃ
とても感謝しているのです。

とき
時には

ほか わくせい
他の惑星から

あんどろめだ こけ
「アンドロメダの苔を

かしてほしい」

いらい
と依頼がありました。

なぜなら、アンドロメダの苔^{こけ}たちは

もり こども ふやして
森のどこに、子供たちを増やしていけば

きぎ かいてき くらして
木々が快適に暮らしていけるかを

りかい
よく理解しているからでした。

こけ
そして、苔たちは

よろこんで
喜んで

にんむ おもむく
その任務に赴くのでした。

しーた けんきゅう
シータの研究は

いっぽうてき
一方的に

こけ ばいよう
苔を培養したり

しけん
試験したりするのではなく

おも こけ
主に、苔たちと

い し そつう
意思を疎通し、

そんちょうし あ う
尊重し合うことでした。

そうすることで

こけ
苔たちが

みづから、

じぶんたち
自分達の

からだ し く み
体の仕組みや

そのほか
その他のことを

おしえて
教えてくれるからです。

こけ い し そつう ほうほう
苔と意志を疎通する方法を

しーた おしえて
シータに教えてくれたのは
ユニコーンのミティでした。

もり ゆにこーん
森にすむユニコーンたちは

だれ
誰よりも

もり しって
森のことを知っており、

しんせい いきもの
また、神聖な生き物として

もり だれ
森の誰からも

あいされて
愛されていたからです。

にっか
シータの日課は

みてい すんで
ミティの住んでいる

もり たずね
森を訪ね、

もり なかま つたわる
森の仲間に伝わる、

しんせい そうごん
神聖で、荘厳で、

しあわせ
幸せな

さまざま おはなし きく
様々なお話を聞くことでした。

しーた じぶん けんきょ
シータは、自分が謙虚になり

さまざま ぞんざい
様々な存在から

まなぶ しりました
学ぶことを知りました。

ちいさないきもの
そして、どんな小さな生き物も

たいせつ ぞんざい
大切な存在であること。

あいする
すべてを愛することはまた、

あひ
たくさんの愛を

うけとる
受け取ることでもあることを。

そして、

きょう
今日も

ふたり もり
2人は森でしあわせにすごして
すごして
過ごしています。

しあわせ
幸せで

へいわ
平和な

あんどろめだ もり
アンドロメダの森が

えいえんぷへん
永遠普遍であるように。

あめのひかり